

皆さんは「坂出市スポーツの殿堂」という言葉をご存知でしょうか？

これは坂出市体育協会（現坂出市スポーツ協会）が平成5年の東四国国体を機に坂出市在住者または坂出市出身者で、国の体育・スポーツの発展向上に顕著な貢献をし、かつ、人格識見に優れ市民の模範となる者の業績を称えるものです。

東京2020オリンピック・パラリンピックが来年に迫る中「坂出市スポーツの殿堂」入りをされている方々の中から、今回は日本人としてマラソン競技で初めて、オリンピックで入賞された山田兼松氏をご紹介します。

小さいころから塩田での仕事を手伝っていた同氏は、塩田に海水をまいたり、柄ぶりという道具で塩を集めたりする浜子として、広い浜辺を走り回る作業が多く自然と足腰が鍛えられ、小学生のころには長距離走では上級生の誰にも負けなかったそうです。塩田で働く先輩たちがマラソンで活躍するのを見て、早朝だけでなく厳しい浜仕事が終わった後の疲れた体で、時には夜道を琴平や善通寺まで往復するなど、激しい練習で強い心と体づくりに取り組みました。

昭和2年の阪神国道開通記念クロスカントリーに出場し、日本新記録で優勝した後、翌年の第15回日本選手権大会でも優勝し、念願のオリンピック代表の座をつかみました。昭和3年8月5日開催の第9回オリンピックアムステルダム大会では、2km地点で早くもトップに立ち、40km付近までトップを走り誰もが同氏の優勝は確実と思っていました。しかし、ゴールまであと2kmというところで突然、右膝に激痛という思わぬアクシデントがあり、優勝は逃したものの痛みに耐え2時間35分29秒のタイムで4位でゴールし、日本人初のマラソン種目入賞者となり、坂出のマラソン、そして日本のマラソン界に大きな影響を与えました。

今も毎年12月の第一日曜日に開催される坂出マラソンでの一般男性並びに一般女性に授与される「山田杯」は、同氏の功績を称えたものです。



坂出マラソン「山田杯」

坂出市立体育館2階に「坂出市スポーツの殿堂」の展示コーナーがありますので、市立体育館へ行った際にはぜひ2階に足を運んでみてはいかがでしょうか。

※参考文献「坂出市スポーツの殿堂」「志をはぐくむ」読み物資料 写真：坂出市立体育館



やまだ かねまつ
山田 兼松



編集後記

いよいよ東京2020オリンピック・パラリンピックまで1年となりました。開催機運が高まりつつある中、観戦チケットの抽選に申し込まれた方もいらっしゃると思いますが、チケットは当たりましたか。1枚も当たらなかった方に2度目のチャンスということで追加抽選の募集が出されましたが、最初から種目ごとの発売枚数がわかっていたら、それなりに申し込みもできたのではないかと後悔してしまうのは私だけでしょうか。

また、今大会の聖火リレーは坂出市もルートに入っているということで、多くの市民で盛り上げ、まさに「市民共働のまち」にふさわしいリレーだったと後世に語り継がれるものになることを願っています。(植原)

広報広聴委員会 委員長……植原 泰 副委員長……茨 智仁
委員……丸岡豊和 東原 章 烏飼年幸
寒川佳枝 若杉輝久 野角満昭

次回開催は…
9月定例会を9月上旬に
開催予定です。

